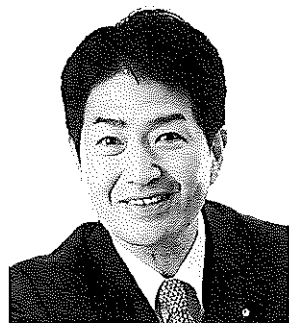


ブレずにまっすぐ 政治の選択肢に

国民の声に耳を傾けない「総理」
「総理」に「忖度」する「霞ヶ関」
ライバル不在一強政治がそうさせる
日本の政治には「選択肢」が必要！
おくの総一郎はブレずに頑張ります。



奥野総一郎 プロフィール

昭和39年 7月 神戸市生まれ
平成元年 3月 東京大学法学部卒業
17年 4月 総務省退職(調査官)
29年 10月 衆議院議員選挙 4期目
現 在 予算委員会理事
憲法審査会幹事
立憲民主党国会対策
委員長代理

佐倉事務所 / 〒285-0843 佐倉市中志津4-1-35
TEL 043-461-8609 FAX 043-461-2997
国会事務所 / 〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1119号室
TEL 03-3508-7256 FAX 03-3508-3526

Website <http://www.s-okuno.jp/> E-mail info@s-okuno.jp

おくの総一郎

Website <http://www.s-okuno.jp/>

週刊
かわら版
VOL.260

R3.4.19発行



千葉県も まん延防止等重点措置

4月20日～5月11日まで、市川、船橋、松戸、柏、浦安が対象です。熊谷知事は当初、適用に慎重でしたが、首都3県の足並みを揃えさせたいという政府の意向もあり、急遽受け入れたようです。

状況によっては区域の拡大もあり得ます。いずれにしても感染力の強い変異株が広がりつつあり、やむを得ません。

私は、ワクチン接種が本格化するまでは、緊急事態も含めさらに強い措置が必要と考えています。

同時に、持続化給付金（売上の減少に応じた額を給付する形で）や特別定額給付金10万円の再支給が必要です。何も手を打たず、感染拡大に歯止めがかからない中で、オリンピックが開催できるとは思えません。

1 ハッキリしない接種時期

ワクチン接種について、私が事務局となって政府からヒアリングを行なっています。

その中で医療従事者、高齢者などワクチン摂取の終了見込みを聞きましたが、政府からは答えが返ってきません。

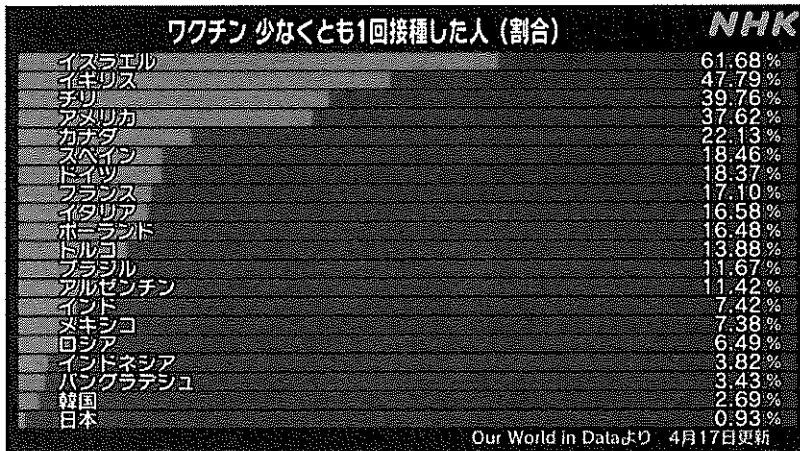
「6月末までに1億回分のワクチンを確保した」というばかりで、具体的な接種スケジュールは自治体に丸投げです。

自治体はいつどれだけのワクチンが配布されるか分からないため、スケジュールが立てられない状況です。

私の選挙区(千葉9区)では4月末までに、千葉市、佐倉市、四街道市が1950回分(2回接種975名分)、八街市が975回分(2回接種477人分)の配分が決まっているだけで、本格的な接種は5月以降となっています。

2 先進国最低の接種率

次の図をご覧ください。



日本のワクチン接種率は先進国で最低、バングラデシュよりも下。4月末までに接種が終わる予定の医療従事者480万人についても、現時点で1割程度しか2回接種が終わっておりません。

日本が確保したとされる1億回分についても、ヒアリングで確認しましたが、EUが域外への輸出許可制をとっているため、いつ来るのか、本当に6月末までに全部来るのか、ハッキリしません。

オリンピックまでに全国民どころか高齢者3600万人の接種を終えることも絶望的です。

3 ワクチン敗戦

ワクチンとの戦いは国をあげた総力戦です。ワクチンを開発し数量を確保し、全国民に摂取する。接種が終わるまでの間、迅速に支援をし国民の暮らしを守らなければならない。科学力、技術力、動員力。まさに国力が問われるのです。

この戦いにいち早く勝利しそうなのが、アメリカとイギリスです。ワクチンを開発し、自国民に一日数十万～数百万人分の接種を行なっています。

我が国の現状はまさにワクチン敗戦。ワクチン確保の遅れは取り戻せないとしても、接種の進捗について、自治体に丸投げではなく厚生労働省が責任を持つべきで、我々も、野党ヒアリングでその点を求めています。

コロナという「黒船」がきて、我々は自国の「遅れ」に気づきました。なぜ、こうなったのか。もう一度日本の進み方を考えなければなりません。まずは我々野党も含め政治の改革が必要です。